

俳句甲子園メール

2015年大雪号 No.005

NPO法人 俳句甲子園実行委員会 (E-mail:info@haikukoushien.com)
〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10-2

TEL:089-943-1512(平日13:00~17:00) FAX:089-948-4819

松山市役所 文化・ことば課 (E-mail:bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp)
〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7番地2

TEL:089-948-6952(平日8:30~17:15) FAX:089-934-1287

先日、松山市内で新春ドラマスペシャル「坊っちゃん」(フジテレビ・H28年1月3日21時~放送)のロケが行われ、主役を演じる嵐の二宮和也さんが道後温泉などで撮影を行いました。来年は夏目漱石の没後100年として、名作がドラマ化されます。ぜひご覧ください。

「俳句甲子園のボランティアをしてみないか」

ボランティア

体験記

俳句甲子園出場選手と同じ高校生からの「ボランティア体験記」です。ボランティア側から見た俳句甲子園の様子をお届けします。

なかなか経験できないこと

「俳句甲子園のボランティアをしてみないか」祖父にそう言われたのが夏の初め。私は俳句についてなんかほとんど知らないけれど、参加して大丈夫なのかなあ。そんな不安とともに、それを引き受けた。説明会に来てみると、高校生のボランティアはかなり少ない。大人に混じってできるんだろうか……しかしそれは杞憂であった。スタッフの方も、同じ会場でタイムキーパーをしたベアの方も、本当に優しく話しかけてくれる。和気あいあ

い、それでいてしつかり連携して仕事をこなしていく様子に私は感銘を受けた。幅広い年代、職種の方々と交流することなど、普段の生活ではなかなか経験できないことである。

タイムキーパーは特等席

当日、タイムキーパーはかなり選手に近い位置で仕事をする。なるほどこれは特等席みたいだ。そうして試合が始まると、選手は渾

身の句を披露し、鑑賞し、実に生き生きと戦っていく。我が子のよう思いを込めた句を、相手に思いつきりぶつめる。その空気で、私までわくわくした気分になるのだ。驚くべきは、その選手全員が私と同じ高校生だということである。

俳句甲子園が好きだから

「俳句」という文学は、若者には一見とつきにくいらしい。事実、初心者ばかりのメンバーを集めるところから始めたというグループも多く出場しているのだ。俳句甲子園は、そんな俳句を若者に浸透させる為に重要な役目を持つ大会である。それでありながらこの大会は、100%ボランティアで運



営されていると言うのだ。それは俳句をやりたい若者を応援する為であり、あるいは純粋に「俳句

裏から堂々と来い！第十四回まる裏俳句甲子園

まる裏俳句甲子園は高校生以外が参加出来る俳句大会です。チーム内に高校生以外が一人でもいれば高校生も参加出来ます。3人1組のチームが、俳句甲子園と同じルールで闘います。高校生とはひと味もふた味も違う、白熱の

バトルをお楽しみ下さい。
平成28年1月10日(日)9時30分〜受付(どなたでも参加出来ます)。10時〜句会ライブによる予選。13時〜本戦。決勝の兼題は「雪」です。会場は松山市立子規記念博物館(愛媛県松山市)。

エントリー料千円(当日千五百円)入場のみの場合五百円。
3月31日までに俳句をまちづくりの会主催。松山市立子規記念博物館共催。お問い合わせ、出場申し込みはマルコポ、コム(089-906-0694)へ。

高校1年(女子)